れは学習指導要領の改定で、古典語古典文学の時間が大幅に減らされ、高校でも古典は教養程度にしか教えられなくなることが確実だからです。これまでは自力で古典が理解できるようにするため、高校では古典文法の教科書が使われることが普通でしたが、これからは一般にはそのようなことはなくなるのではないかと思われます。そして、学校から古典文法の授業がなくなるということは、現代語文法の授業もなくなるということであると考えられます。現代語の学校文法のシステムは古典語文法のシステムにならってつくられたものであり、現代語文法を学ぶことは古典文法を理解するためにのみ意味があったと考えられるからです。そして、現代語の学校文法を知らない生徒に古典語の学校文法の教科書を与えるのは可哀そうですから、日本人生徒のためにも、学校文法のシステムに頼らない、国際的なスタンダードに立った、あらたな、実り多い古典文法の教科書の開発が求められているということでしょう。

ところで、サンパウロ大学でこうした教育方針がとられていたのは、おそらく日本語を第二言語として習得する必要のなかった日系の２世が、現地のスタッフであったためだと思われます。実際、中南米といっても、アルゼンチンでは日本語教育の担い手は海外青年協力隊の人達でしたし、メキシコの日墨学院ではスペイン語を勉強しにきた日本人留学生や日本の商社マンの夫人たちでした。全体、ブラジルでの日本語教育の担い手が、日本文化に対して特別な憧憬のある日系２世ではなかったとすれば、私が日本からわざわざ出向いて古典語を教えることもありえなかったことだと思われますし、そうでなければ私もこうした問題について考える機会を与えられることはなかったはずだと考えますと、結果としては大変にありがたいことであったと思っております。

なお、この機会に気になっていることを１、２述べておきたいと思います。まず、日本研究を行なっていながら、研究環境にめぐまれていない研究者を日本に呼び、研究を発展させる機会を与えることは重要なことと思われます。そうした目的のために本学にも外国人客員研究員制度というものがあるのですが、その制度によって研究員として認められても、長期ビザの取得がかなわないということが実際にありまして、学術交流に十分な理解を示さない在外公館があることに問題を感じています。

また、本専攻だけで考えてもしかたがないのですが、アジア諸国などでは一歩大都市から離れれば日本文化を知ることのできる書籍を見ることは大変だときいていますので、現在どこにいっても未整理の寄贈図書が置いていない大学はないと思いますが、そうしたものの中から日本語教育、日本研究に役立ちそうなものを、必要としている現地に送る手助けをするというようなことも大切なことのように思われます。

タイの国立大学における日本語学、日本文学に関する研究データの現状と問題点

タウィペン・スンタラーチャーン

これからタイの国立大学における日本語学、日本文学に関する研究データの状況と問題点について述べさせていただきたいと思います。

私が所属していた大学の日本語学科の図書室にはある程度の参考書が備えてあります。しかし、その多くは日本語の教科書や練習帳、日本語教授法などといったもので、授業を行うために実用的ではありますが、学問的な参考書は少ないです。文学関係には、古典文学全集、近代作家の全集などがあります

が、論文集はほとんど置いてないです。

所属大学以外の図書館には日本財団の図書室があります。かなりの書籍を収めていますが、出版年代はかなり古いほうです。学会誌はある程度置いてありますので、最近の論文を読みたいときには助かります。

参考書の入手方法についてですが、個人的なものは、日本国際教育協会（AIEJ）の支援制度があります。「帰国外国人留学生に対する専門資料送付」というプログラムで、留学生が帰国後、３年間にわたって専門資料を送ってくれるものです。これは本人が帰国する前にあらかじめ希望書籍のリストを書いて申請しておきます。

大学への参考書の提供に関しては、日本財団の援助が行われています。毎年書籍購入のための援助金が各大学に日本財団から支払われているようです。参考書の注文は大学側が各自行うことになっています。問題は最新の書籍情報がないことや注文から入手までかなり時間がかかることなどです。

最後に、帰国後、研究を続けていくときに問題に思われる点についてお話したいと思います。第１に、毎年発行されている参考書あるいは発表された論文に関する情報を調べたいとき、どのようにすればいいか分からないということです。第２点目は現地では同じ研究をしている人達を集めて研究会を開くことはあまりないため、研究者の交流がほとんどないということです。

イタリアの日本研究事情

セレナ・ヴァラニ

私はイタリア人ですが、現在お茶の水女子大学で研究生として勉強しています。自分の経験によると、イタリアで研究する上の困難な点はたいてい図書館とコンピューターの使用に関すると言えると思います。

大学卒業論文のために資料を集めようとしたとき，次のような問題に直面しました。まず、イタリアの図書館の開館時間はずっと限られています。多くの場合はある図書館から別の図書館に本を送ってもらうことも無理ですし、可能な場合でもずいぶん時間がかかります。公共ではなく、プライベートで専門的な図書館もありますが、それはよくボランティア活動でやっていまして、役に立つ資料が多く集めてあるのに、毎日二時間しか開いていないような研究室で、それに本を貸し出したりしないシステムになっています。

コンピューターの使用に関する問題はほとんど内蔵のイタリア語版のシステムに関わっていると言えるでしょう。イタリアで使われている一般的なコンピューターは日本語の文書を読み取ることができず、特別なソフトがないので、日本語の文字が読み取れないことによってインターネットのページも見ることができず、図書検索さえ不可能になってしまいます。